

(2) 道徳の時間及びホームルーム活動の指導事例

小学校低学年

- 1 主題名 生命の大切さ 低3-(2)
- 2 資料名 「だいじないのち」
(奈良県小学校道徳番組「ひとみかがやくときシリーズ」)
- 3 指導について



本資料は、帰宅を急ぎ、危険な近道を通してけがをした主人公が、生命(いのち)を大切にしてほしいという母親の願いや自分が生まれたとき家族みんなが喜んでくれたことを知り、生命の大切さについて考える話である。

してはいけないことや注意されたことを守らないと大切な生命を失うこともあり、自分を見守ってくれている身近な人々を悲しませることになってしまう。子どもたちには、主人公の思いに共感させながら、自分自身も家族に大切にされていることに気付かせ、自分だけのものではないかけがえのない生命を大切にしようとする気持ちを高めたい。

- 4 ねらい 失えば代わりはない、たった一つのかけがえのない生命を大切にしてほしいという母の願いに
気付き、生命を大切にしようとする心情を育てる。

5 展 開

	学習活動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導 入	1 自分の小さいころの様子を思い浮かべる。	○ 今まで家族に心配をかけたことはありますか。それはどんなことですか。	・家族が心配をするのはどんなときかを思い浮かべることで、ビデオの主人公を身近に感じられるようにする。	
展 開	2 ビデオ「だいじないのち」を視聴して話し合う。	○ 友達に誘われて、近道の細い橋を渡ろうとしたとき、達也はどんなことを考えていたでしょう。 ・細い橋だ。あぶないなあ。落ちないかな。 ・ちょっとこわいな。でも、真吾くんは渡ったし、きっとぼくも渡れるよ。 ・遅くなったから、この橋を渡って早く帰ろう。 ○ 橋から落ちておじさんに助けてもらったとき、達也はどんなことを思ったでしょう。 ・よかった。ありがとう。 ・おじさんが来てくれなかったら、家に帰れなかったかもしれない。 ◎ 「もう絶対危ないことはしないでね。いのち生命は一つしか	・「橋から落ちて大けがをした子がいたよ。」と近道を通るのを止める昌子の言葉を思い起こさせ、危ない、怖いと思いながらも誘いを断り切れず渡ろうとする達也の不安な気持ちと心の弱さに気付かせる。 ・助かってほっとした達也の気持ちとともに、もし、おじさんが来てくれなかったら、どうなっていたらと考えることにより、達也の行動がとても危険なものであったことを再確認させる。 ・お母さんが語りかける場面を再	ビデオ ビデオ

	<p>3 自分の生活を振り返る。</p>	<p>ない。一度失えばかわりはない。自分の生命、みんなの生命を大切にしてほしい。」というお母さんの話を聞いて達也はどんなことを思いましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 危なかった。大けがをすところだった。 • お母さんがとても心配してくれている。 • お母さん、ごめんなさい。これからは危ないことをしないよ。 • 生命を大切にしよう。 <p>○ これまでに、自分が家族にとっても大切にされていると思ったことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 病気の時、心配してくれた。 • お誕生日にお祝いをしてくれる。 	<p>度視聴させ、じっと聞き入っている達也の気持ちに共感できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 達也の気持ちをワークシートに書くことで、お母さんの言葉の意味をしっかりと考えられるようにし、危険な行為が生命を脅かし、自分を大切に思っている家族を悲しませることにもなることに気付かせる。 • 自分の生活を振り返り、家族にとっても大切に育ててもらっていることに気づき、生命を大切にしようとする気持ちを高める。 	<p>ワークシート</p>
<p>終末</p>	<p>4 教員の話聞き、これからの生活に生かそうという思いをふくらませる。</p>	<p>○ みなさんにもこのような赤ちゃんのころがありました。私が、一番うれしかった日も、自分の子どもが生まれた日です……。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 親の立場から、子どもの誕生の喜びと成長を見守るうれしさを伝えられるようにする。また、友達や動物、植物などすべての生命がたった一つしかない大切なものであることに気付かせるようにする。 	<p>赤ちゃんの写真（高学年「心のノート」62頁）</p>

6 小学校第1学年での実践から

【「もう絶対危ないことはしないでね。生命は一つしかない。自分の生命、みんなの生命を大切にしてほしい。」というお母さんの話を聞いて、達也はどんなことを思いましたか。】

- お母さんに心配をかけてしまった。ごめんなさい。
- もう、こんなけがはしたくない。こわかったな。
- 自分の生命を大切にしよう。
- これからは、もう絶対あの橋を渡らないよ。しんちゃんに誘われても断ろう。
- 昌子ちゃんの言うことを聞いて、渡らなかつたらよかった。
- これからは、危ないことはしないでおこう。
- ぼくが大けがをしたら、お父さんもお母さんもおじいちゃんもおばあちゃんも心配で悲しくなってしまう。
- もし、死んだらもう生き返れないんだ。
- ぼく、お母さんに会えないなんていやだ。

【家族に大切にしてもらっていると気付いたことはどんなことですか。】

- わたしがガラスでけがをしたとき、とても心配してくれた。
- 火に近づいたとき、「危ないから近づいたらダメ。」と言ってくれた。
- 遊んでいてけがをしたとき、「大丈夫だよ。」と何度も言って心配してくれた。
- 道を渡るとき、信号を守って気をつけて渡るように教えてくれた。
- 公園へ遊びに行くとき、「早く帰っておいで。」と言ってくれる。
- 「よその人についていったらダメよ。」と話してくれた。
- 家へ帰るのが遅くなったとき、しかられたけれどとても心配してくれていた。
- 遊んでいるとき、よく「危ないよ。」と言ってくれる。

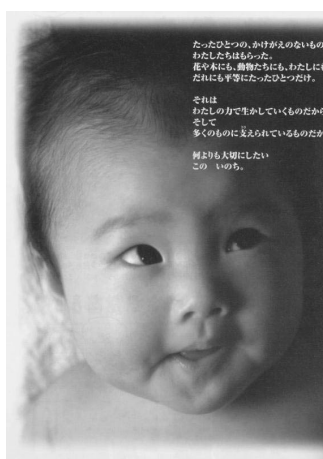
子どもたちは、家族が自分のことを心配してくれた様子をたくさん思い出すことができたようである。自分はとても大事にってもらっていると分かり、うれしそうに話す子どもたちも多かった。そして、大切に思ってくれているから、注意をしてくれたりしかってくれたりするということに気付くことができた。

この学習の後、心のノート56、57頁「みんなみんな生きているよ」を活用して、自分の生まれたときの様子を家族に聞き取らせることにより、さらに、みんなに見守られ支えられて成長してきたことに気付かせるようにしたい。

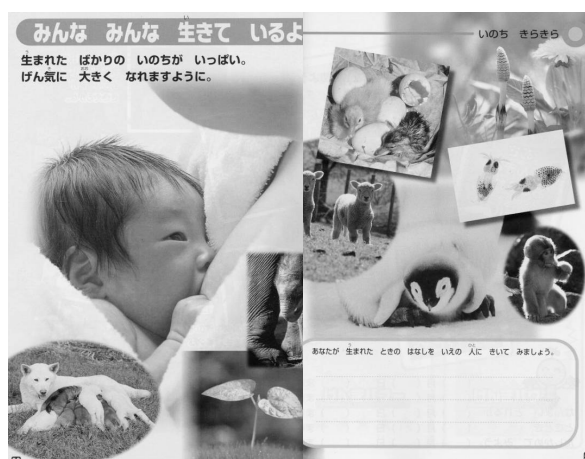
なお、聞き取りを行うときや、聞き取ったことを基に学習を進めるに当たっては、各児童の家庭状況に十分配慮する必要がある。そのため、保護者と連携を図りながら進めていくことが大切である。

7 生命尊重にかかわるその他の資料

- 「ハムスターの赤ちゃん」 文部省 道徳教育推進指導資料（指導の手引）3
- 「生きているって、うれしいな」 奈良県道徳実践活動学習教材「ひびき合う心」低学年編



「心のノート」高学年用62頁



「心のノート」低学年用56、57頁